

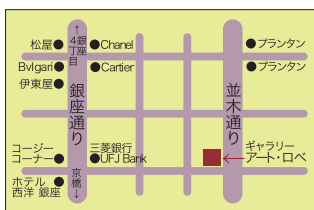
〈2010年度在京白聖会クラブ活動スケジュール〉

- 10月30日(土) ル・サロン・ブラン「陶芸教室」
(場所: 日本陶芸倶楽部(神宮前・東郷神社境内) <1面>)
- 11月6日(土) 中世城郭探訪
(場所: 岩櫃城(群馬県東吾妻町) <2面>)
- 11月12日(金)「第8回 在京白聖会ゴルフ大会」
(場所: ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎(茨城県龍ヶ崎市) <3面>)
- 12月2(木)~4日(土)「第3回 白聖芸術祭」
(場所: 画廊アート・ロベ(銀座1丁目) <1面>)
- 平成23年2月6日(日)「歌の新年会」
(場所: パー「スリーアロー」(銀座8丁目) <2面>)

※ご質問、ご不明な点は事務局(03-3431-5860)までお問い合わせ下さい。



年々充実する「白聖芸術祭」(写真は昨年度)



記時間帯に画廊
頼する者は、上
守※宅送を依
日及び時間厳
宅送を依頼(期
引取りに来るか
1800の間に直接
搬出 12月4
けは画廊が実施
厳守※飾り付
搬入 12月1日(水)11:00~15:00の間に
会場へ直接持込むか宅送。(期日及び時間
の負担)

- 開催期間 12月2日(木)~4日(土)
2日(木)12:00~18:00
3日(金)11:00~18:00
4日(土)11:00~17:00
- 会場 画廊アート・ロベ(〒104-0061 中央区銀座1-5-1 第3太陽ビル5階) 電話03-355643253
- 募集作品 ジャーナルを問わず(歌、句等は色紙等に書いて掲げられる体裁にて出展。不明な点は在京白聖会事務局に)
- 出展点数 一人一点
- 出展料 無料(但し、作品の搬出入及び展示額等、展示にかかる費用は全て出展者の負担)
- 出展資格 在京白聖会員
- 年会費 在京白聖会22年度年会費2千円を、同封の振込用紙にてお納め下さい。
- 搬入 12月1日(水)11:00~15:00の間に会場へ直接持込むか宅送。(期日及び時間厳守※飾り付けは画廊が実施)
- 搬出 12月4日(土)17:00~18:00の間に直接引取りに来るか宅送を依頼(期日及び時間厳守※宅送を依頼する者は、上記時間帯に画廊)

2010白聖芸術祭

出展者募集

第3回 白聖芸術祭銀座で開催

12月2日(木)~4日(土)

在京白聖会報

第29号

平成22年9月11日

発行

在京白聖会
(事務局)

〒105-0003 東京都港区

西新橋3-5-2

西新橋第一法規ビル5F

玉澤健児税理士事務所 内

TEL&FAX:03-3431-5860(直通)

http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm

参加者募集

「陶芸教室」鑑賞と作陶にチャレンジ!
第5回ル・サロン・ブラン——平成22年10月30日(土)——

日本陶芸倶楽部は細川護熙元首相も学んだ名門陶芸倶楽部。アマチュア作品展を鑑賞してから作陶体験をします。芸術の秋の一日を、日本文化に親しみましょ。お気軽にご参加ください。

●日時 10月30日(土)14時~

●場所 日本陶芸倶楽部渋谷区神宮前1-5 東郷神社境内 電話03-3402-3634

- 集合場所等 3階展示会場に13時まで集合。作品鑑賞後、作陶にチャレンジ。
- 参加費 5千円(在京白聖会平成22年度年会費2千円を含む)
- 申込 10月28日(木)までに在京白聖会事務局へ。
- 参加資格 在京白聖会非会員の参加も可能です。



及川昭伍元会長が学ばれた倶楽部です

●お願い 撮影の許諾について
出展作品を撮影し、在京白聖会報来春号に作品写真を掲載することを了解された上でお申込み下さい。

●日時 12月2日(木) 15:00~17:00の2回公演

●朗読会
昨年と同じく、野口田鶴子さん(S40卒)による宮沢賢治と五行歌の作品の朗読が行われます。今年もまた、素晴らしい感動を体験して下さい。(全て立席で椅子席はありません)

●案内状 出展者には10枚の案内状をお送りしますが、更に必要な場合は、出展申込時に所要枚数を明記のこと。

●出展申込 次の事項を明記(様式自由)して11月12日(金)までに在京白聖会事務局へ(電話連絡不可) ①氏名 ②卒業年次 ③連絡先住所及び電話番号 ④出展するジャンル ⑤タイトル ⑥寸法(絵画の場合は号数) ⑦作品の搬出入の詳細(持込・引取・宅送等の別) ⑧案内状の必要枚数 ⑨オープニング・セレモニー参加の有無及び参加人数(高校生以下は明記)

●参加費 4千円。作品出展の有無に関わらず誰でも参加可能ですが、同伴者も同額の参加費が必要(但し未就学児童は無料、小学生・高校生は2千円)当日、会場にて申し受けます。

●参加申込 作品を出展されないでオープニング・セレモニーのみに参加される方は、11月12日(金)までに、参加者の氏名及び人数を在京白聖会事務局へ。



昨年の野口田鶴子さんの朗読風景

参加者募集

真田一族の故地を訪ねる

第8回中世城郭探訪 — 平成22年11月6日(土) —

〔見学先〕岩櫃城(いわびつじょう)

南北朝時代、岩櫃山(群馬

県東吾妻町)の中腹に在り土

豪の手によって築かれた岩櫃

城は、武田信玄の命を受けた

真田幸隆が謀略によって攻略

した後、堅固な山城に修築さ

れた。後年、甲斐が信長の侵

攻にさらされた時、真田昌幸

(幸隆の三男。幸村の父)は

武田勝頼に岩櫃城に落ち延び

ることを進言したが、勝頼は

外様の真田氏ではなくて、縁

戚である小山田氏の居城岩殿

城(山梨県大月市)を頼って

甲府を後にした。しかし小山

田氏の違背に遭って勝頼は妻

子とわずかの主従と共に行き

場をなくし、山中で自刃して

名門武田氏は滅亡した。

その後、徳川勢の城攻めを

自身が築城した上田城で二度

も撃退した謀将真田昌幸が、

信長の軍を迎え撃つだけの

守りを確信していた堅城岩櫃

城の全貌を見る。

〔開催要領〕

●期日 11月6日(土)

●行動 ◆往路▽上野駅発07:20(特急・

草津1号)群馬原町駅着09:27 ◆復路▽

群馬原町駅発15:12(特急・草津4号)

上野駅着17:20(注:往復の指定券は一

括して購入しますので、途中駅での乗下

車、現地集合または解散を希望の方は申

込時にお申し出ください。なお乗車券は

各自で購入していただきます。

●参加費 特急指定券代を当日、申し受

けます。在京白聖会22年度年会費未納の

方は、当日、納付されて下さい。

※(注意)10月6日以降、取消料発生。

●参加資格 在京白聖会非会員の参加も

可能です。

●申込 10月1日(金)までに在京白聖会

事務局へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。



新府城跡から望む富士山

〔2011年春季催行〕

甲斐武田氏興亡の跡を辿る

早春の雪を頂く富士山を眺め

ながら、春本番の甲斐路を散

策し、武田氏興亡の跡を辿る。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

事務局長へ。

参加者募集

ピアノの伴奏で歌を楽しむ

白聖有志で「歌の新年会」— 平成23年2月6日(日) —

「歌の祭り」クラブは、来年

2月、「歌の新年会」を開催し

ます。「生のピアノ伴奏で合唱

や独唱を楽しもう」というの

がこの催しの趣旨です。歌の

大好きなみなさんのご参加を

お待ちしております。

〔開催要領〕

●開催日時 平成23年2月6日(日)、

12時集合 17時解散予定

●開催会場 バー「スリーアロー」

住所 東京都中央区銀座8-2-14 竜王

ビル3階 電話0335729648

●会費 6千円(在京白聖会22年度年

会費2千円を含む)

●申込 11月末。参加申込の方へは、

詳細なご案内を別途お送り致します。

なお、ピアノ伴奏の歌(二人2曲まで)

を希望する方は、この日までに早坂宛

に楽譜をお送りください。

●申込先 早坂または阿部まで。



積水寺と要害山城

▽早坂光平(31年卒)
TEL/FAX 0336632725
Eメール hayak@comhome.nip
住所 〒175-0082 東京都板橋区
高島平8-27-112007
▽阿部克行(31年卒)
TEL/FAX 043-2794707
住所 〒261-0011 千葉県千葉市
美浜区真砂2-23-95003

〔第3回「歌の祭り」活動報告〕

24名が参加し賑やかに開催

第3回「歌の祭り」が、6月

30日(水)に洋風居酒屋ボナ



ピアノ伴奏で歌う参加者



「歌の祭り」参加者 (H22.6.30)

ペティに24名が集まって賑やかに開催されました。年代も22年卒から43年卒までと、幅広い年次にご参加いただきました。当日は軽い昼食をとりながら自己紹介や近況報告をした後、校歌を皮切りに「遙かな友に」や啄木の歌などを全員で合唱。35年卒の蒲生美津子さんが本居長世の童謡を解説・紹介し、蒲生さんの伴奏で童謡を歌唱しました。

独唱では、22年卒のお元氣な坂田純治さんを初め8名がシューベルトの歌曲、オペラの Aria、カンツォーネ、シャンソン、ポップスの数々を熱唱。なかでも初参加の43年卒の玉澤健児さんがギターの弾き語りで喝采を浴びました。

その後、カラオケタイムで数名が得意の美声を披露し、正午からの5時間がまたたく間に過ぎました。



昨年の参加者 (H21.11.13)

●期日 平成22年11月12日(金)
 ●会場 ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎 茨城県
 龍ヶ崎市長町原口1592-77

●開催要領
 在京白聖会の秋の恒例行事ゴルフ大会を今年も開催いたします。個人参加、年次でのチーム参加のいずれでも大歓迎です。特に若い皆さんの参加をお待ちしております。

例年、帰りの送迎バス内の歓談が大好評です。さらに楽しい思い出を作っていたくため、是非、送迎バスをご利用ください

参加者募集

第8回 在京白聖会ゴルフ大会 平成22年11月12日(金)開催

在京白聖会の秋の恒例行事ゴルフ大会を今年も開催いたします。

個人参加、年次でのチーム参加のいずれでも大歓迎です。特に若い皆さんの参加をお待ちしております。

例年、帰りの送迎バス内の歓談が大好評です。さらに楽しい思い出を作っていたくため、是非、送迎バスをご利用ください

【開催要領】

●期日 平成22年11月12日(金)
 ●会場 ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎 茨城県
 龍ヶ崎市長町原口1592-77

TEL. 0297-64-0110
 ●スタート O.U.T.I.Nとも09:15から
 各6組(募集締切後、参加者に組合せ・スタート順等を郵送)
 ●集合 08:30(時間厳守)
 ●募集定員 48名
 ●参加資格 在京白聖会会員
 ●参加費 7千円(懇親会飲料代、賞品代、在京白聖会22年度年会費(2千円))
 ●プレー費 15,300円(概算、各自で精算(昼食代及び懇親会オードブル代を含む))
 ●プレー 18ホール・ストロークプレー!
 ハンディはダブルベリア方式で算出。同ネットは卒業年次上位。
 ●対抗戦 卒業年次対抗戦として行う。
 1チーム4名の上位3名の合計スコアで順位決定。(対抗戦は3名以上参加の年次のみノミネット可能。2名以下で参加の年次は個人戦のみの参加とする)
 ●表彰 年次対抗戦団体優勝、個人戦優勝は各賞多数

第6回在京白聖レディース会が6月26日(土)銀座の「SUMI高松」で開催されました。幹事はS33卒生。出席者は38名。そのうち幹事年度の方が8名。盛岡からの参加者は32年卒、33年卒が各1名でした。

司会は鈴木芳子さんと、講演は「死別の悲しみを越えて」という演題で東京慈恵会医科大学客員教授・柴孝也さん(S33年卒)。

柴先生の講演は、亡くなられた奥様に関してのお話のほか、衆議院議員事務所の担当は慈恵会医科大学の医師が勤めることになっているため、時の総理大臣の外遊に随行したときのエピソードや、東京ドームの産業医として巨人の選手たちとの交流等、たくさんのお写真とともに、ユーモアを交えて楽しいお話をいただきました。

活動報告

銀座でお食事と講演のひととき 第6回在京白聖レディース会——平成22年6月26日(土)——



講師の柴孝也氏を囲んで、参加者のみなさん

講演終了後、記念写真を撮って懇親タイム。和食のランチとおしゃべりを堪能しました。来年の幹事は34年卒。3月発行の次号会報に開催概要を掲載しますので、たくさんの方のご参加をお待ちいたします。

TOPICS

応援に30名が駆けつける 硬式野球部が千葉に遠征

会報28号でご案内の通り、今春3月末、母校硬式野球部が千葉に遠征しました。3月28日(日)には父兄、野球部OB、杉田監督と同期の白聖38会の皆さんを中心に約30名が千葉明德高グラウンドまで応援に駆けつけました。試合終了後は監督を囲んで激励の懇親会。母校硬式野球部は昨年の準優勝に続き、今年もベスト4と活躍しましたが、この躍進を支えているのがこうした遠征です。来春の遠征にも大勢応援に行き、甲子園への夢ロードを共に歩みましょう。



3月28日は午前・千葉明德、午後・東京学館新潟の2試合が組まれ、ともに1点差で勝利。応援にも力が入った。試合後は、杉田監督(中央)を囲んだ懇親会





小河原 通・著
「コンクラーベの謎」

2004年5月、ダン・ブラウンの「ダ・ヴィンチ・コード」が角川書店から出版され、ミリオンセラーになった。2006年5月にはトム・ハンクス主演で映画が世界同時公開され、店頭には、「ダ・ヴィンチ・コード」関連の書籍が山積みになった。本書は、そんな最中の2005年、ヨハネ・パウロ二世の死にともない行われたコンクラーベのテレビ中継に触発されて執筆が開始され、2006年3月に刊行された。ヴァチカンの権威の源泉である天国の鍵(クラーベ)、これをマタイ福音書に挿入したのは誰か? この史上初の謎解きが、古事記偽書説と対比して展開されていく。「ダ・ヴィンチ・コード」に魅了されたファンには垂涎の一冊といえるだろう。それにしても、どうしてわれわれは「象徴(シンボル)の謎」に弱いのだろう。「ダ・ヴィンチ・コード」のラングドンは宗教象

★ ★ ★ ★ ★
聖の棚
白本
★ ★ ★ ★ ★

イエス復活の謎に迫る

「コンクラーベの謎―ヴァチカンの権威に挑む」

小河原 通・著 (S34巻) けやき出版 2006年3月刊

徴学者だった。本書の作者は、さながら「ダ・ヴィンチ・コード」のラングドンよろしく、コンクラーベの「天国の鍵」に秘められた象徴の謎を解くことで、イエス復活の謎を読み解く。その縦横無尽な碩学と筆さばきの見事さは、息をつがせないほどの面白さだ。謎解きの情熱の源泉を、作者は次のように語る。

「聖書は、旧約も新約もありますが、数多くの寓意を収録しています。クリスチャンにこれらの寓話は歴史的事実です。しかし、私を含む大部分の日本人にとっては、すべての奇跡話は寓意にか過ぎませんから、その寓意を読み解かねばなりません」

その謎解きは記紀神話にも及ぶ。著者は、脱線と断るが、日本の古代史への言及も実に興味深い。例えば最近、中国が沖縄を自国領土と主張、日本に返還を求める論文を発表し話題になったが、北京政府は韓国にも同じ主張を突きつけていた。本書ではその根拠も分かる。

「聖書神話」と「記紀神話」の常識へ挑戦した本書は、象徴や寓意には極めて重要でデリケートな謎が隠されていることを教えてくれる書でもあった。

TOPICS

浅沼榮一(号二道)さん(S27年卒) 母校に校歌屏風を寄贈

本会報の題字でお馴染みの浅沼一道さんが母校に校歌を揮毫した六曲一双屏風を寄贈、4月7日(水)の母校入学式当日、演壇の上に飾られ、全校生徒の前に披露されました。



浅沼さんは、昨年甲子園に出場した菊池雄星ら花巻東高校選手のユニフォーム右腕に「若手」の2字を揮毫。また、今年3月16日(21日、東京銀座画廊美術館7階で開催した「浅沼一道喜寿記念展」では広い会場の壁面いっぱいをおさめる大作を発表するなど、現在も精力的に活動が続けておられます。



(写真上) 4月7日の母校入学式で全校生徒に披露された浅沼一道さん揮毫の校歌屏風。舞台上の「忠実自強」の額も浅沼さんの揮毫。(写真下) 浅沼一道喜寿記念展に出展された校歌屏風(写真提供/谷村邦久さん・S41卒)

白聖五行歌会

白聖五行歌会は、毎月第1金曜日午後6時30分から秋葉原で歌会を行っています。参加をご希望の方は03-3269-3420(42年卒・白聖五行歌会代表・山田)までお気軽にご連絡ください。メール sakuraco@leaf.ocn.ne.jp 可。

小雀と
軒先を分け合った
不来方の東屋
岩鷹は恥じらい
青空もなく
山田武秋(S42卒)
お袋という
大きな庇護から
巣立っても
原点にはいつも
その心が生きている
伊奈 裕(S38卒)

立ち枯れる命たち
ぬるく汚れた
世の匂い
蟻地獄であがく
若者たちを悼む
光 平(S31卒)

坂の上に
黄いろのため息
蜩梅は
透明な球体を
綴る
八十若(S22卒)

※2010年4月～8月の作品から。作者名はペンネームもあります。

TOPICS

総持寺で花祭りコンサート

森知英さんが、4月8日、鶴見の曹洞宗大本山総持寺で花祭りコンサートに出演、ショパンの「ノクターン」やリストの「ラ・カンパネラ」などクラシックの名曲を披露しました。

鶴見大学の藤沢文有さん(S50卒)の企画で今年初めて実現したもので、会場の鶴見大学記念館記念ホールは満席の大盛況。恒例行事となりそうです。横浜方面の方は、来年にこそ期待ください。



コンサート終了後、森知英さん(右から4人目)と記念撮影

お願い

会費未納の方は、同封の振替用紙で年会費二、〇〇〇円をお振込み願います。
なお、振込みは窓口でなく、極力ATMにてお願いいたします。

2010総会報告

土人踊りで
育まれた
盛中・一高魂294名が集う
5月8日(土) 東京グリーンパレス

創立130周年という記念すべき年、私たちが掲げた総会テーマは「世代を超えて、心を一つに、語り、歌い、踊り、より強い白聖の絆を紡ぐ」――

当日は朝から快晴で、294名が参加。ご来賓として盛岡より千葉研三校長、白聖同窓会の安達孝一会長のほか、恩師の野村武士先生、高野千俊先生、櫛井征四郎先生にお越しいただきました。総会議事はつつがなく完了し、鏡開き・乾杯をもって懇親会に移行。鏡開きに使用した樽酒は私たちが53卒と縁の深い廣田酒造の「純米吟醸酒・紫波ほ乃香」です。今回の懇親会で



盛り上がったアトラクションの「土人踊り」

の主要なアトラクションは『土人踊り』。本会場の隣「さくらの間」では、同期生の書画・写真の作品と共に『土人踊り』の発祥から現在までの歴史を振り返る資料を展示し、また、53卒が在校時に、岩手放送により製作されたテレビ番組『白聖城の土人たち』を上映、ご好評をいただきました。

アトラクションの『土人踊り』も、予想を超える先輩後輩の方々に参加いただき、十分にご堪能いただいたことと喜んでおります。なお、『土人踊り』は現在『猛者踊り』と名称を替えています。が、今回の企画では「差別は言葉にあるのではなく、心の中にある」という考えから、敢えて『土人踊り』という呼び方といたしました。

『土人踊り』は既に在京白聖会の中にだけ命脈を保っています。次に行われるのはほぼ5年後だろうと思われませんが、『二高魂』の継承という意味でも、今後も続けられることを期待します。

次年度担当の54年卒の皆さんは、まさに意気軒昂な学年世代です。今年にも増して活気に満ちた総会にしてくれらることでしよう。もちろん、我々が準備期間に受けた先輩方の支援に負けないように、今後も後援に回りたいと考えています。皆様どうもありがとうございます。(53年卒幹事団一同)

S54年卒以降



S53卒幹事団



